

# ORICNEWS

# 翔飛

ひしよ

入居企業紹介

株式会社  
ビークル

二重でヒト細胞

バイオナノ粒子を用いる  
新しいピンポイント遺伝子導入法の開発と  
先端医療への応用を目指して...

詳細は7ページをご覧ください

www.beacle.com

〒700-0001 岡山県岡山市東区北山1-1-1  
TEL: 086-286-8081 FAX: 086-286-8082  
TEL: 086-286-8083 FAX: 086-286-8084

## 一本号の主な内容

- 巻頭言
- 研修・交流会活動
- トピックス
- スタッフルームよりお知らせ
- 入居者募集のご案内

No.14 (2006.10)

## 「日本のビジネス・インキュベーション に欠けていること」

財団法人日本立地センター 新事業支援部長・

日本新事業支援機関協議会 (JANBO) 事務局長代理 梶川 義実



インキュベーションという言葉は、数年前までは認知度の低い、カタカナ語であった。2003年に文化庁が行った「国語世論調査」でのカタカナ語認知度では最下位(120位)であり、一般には誰も知らない状況であった。そのときの調査で第1位はストレスである。しかし、今や、バス停留所にも「インキュベーションセンター」があり、Googleで検索すると77.6万件がヒットする状況になり、認知度は上がったといえる。しかし、正しい理解がされているかという点、否といわざるを得ない。日本では長い間、「インキュベーションは起業家にインキュベータという施設を安く貸すこと」と誤解されてきた。正しくはビジネス・インキュベーション(以下、BIと略)であり、事業創成と理解すべきものである。

BI発祥の地は起業家精神旺盛な米国である。創業期の負担を軽減し、かつビジネスの手ほどきをして、成功確率を高めるため古いレンガのビルを改修し、ビジネス経験者や成功した起業家が、起業者を経営者に育成したことがそもそもの始まりである。安く貸すには理由があったのである。BI成功に重要なことは、安く貸すハードではなく、ハートのある起業家の存在とハートのあるインキュベーション・マネジャーをはじめとする支援者ネットワークの存在である。それゆえ、米国ではインキュベーション・プログラムという言い方をしている。

1980年代後半から、世界各地でBI政策が実施され、最近では中央アジアやアフリカで盛んに取り入れられている。その頃の我が国はどうであったか?バブル経済真っ盛りであり、Japan as No.1であった。米国、英国はどうであったか?日本経済の裏返しで、苦境に陥っていた。韓国や中国は1990年代後半にBI政

策が実施されたが、韓国はIMFショック、中国は改革開放で国際社会に参入するため必死であった。経済的に苦境に陥った国が大学や国の研究機関が開発した技術を活用し事業化する際にとられた政策がBI政策であった。これらの国のBIは今や結実し卒業企業は収穫期に入っている。このORICとも関係の深い上海のインキュベーション協会の状況をみればおわかりだろう。これらの国々の入居企業は、自分の事業を成功させ一日でも早くBIから卒業すべく日夜努力している。BIやインキュベーション・マネジャーは、起業家が早く一人前の経営者になり、地域に定着し地域経済の活性化に寄与するよう、有形無形のサポートをしている。

さて、日本はどうか?最近では「インキュベーションとは、ベンチャーに安く部屋を貸すこと」といった誤解をする関係者は少なくなったが、私は、まだ道半ばと考えている。立場上、「日本のBIはうまくいっているか?」「成功しているBIはどこか?」とよく聞かれる。それぞれのBIの設置目的、すなわち、「なんのためのBIか。何を生み出す政策か」により成功のとらえ方は違うであろう。地域経済活性化を目的とすれば、卒業企業が地域に定着し事業を拡大していることが成功か否かを評価する指標になる。国内外の成功しているBIをみると、成功する意思があり事業の顧客が見えている起業家とこれを支えるインキュベーション・マネジャーおよびその支援ネットワークがきちんと揃っている。成功しないのは、そのどれかが欠けているのである。

幸い、ORICにはこれらの条件は揃っている。あとは入居企業がORICから飛翔し、地域に大きな幸福を運んで来ることを待つだけである。

## 7 月度ORIC交流会及びセミナー

### ● 入居企業紹介

#### 「GISシステムを利用した無線データ通信システムについて」

##### (株)シスコ・コミュニケーションズ

代表取締役川西博仁氏より同社の開発した「独自の無線機を使用して様々なデータを送受信し、そのデータをPCでGISを活用して無線機設置位置の情報やデータを管理・監視するシステム」の紹介がありました。このシステムは「車両などの運行状況や各地に設置された各種メータの状態についても地図上で確認でき、その情報が加

工できるようになっていること」、「無線間は独自プロトコルなので無線傍受は不可能で、かつ独自OSによりウィルス侵入の心配がなく、高いセキュリティが確保されていること」また、「この無線機は無線モデムを水道メーターのBOX等の中に置いても100m前後の距離では通信が可能という優れものため、従来、有線設備を設置していた各種メーターの検針作業に比べ、大幅なコスト削減を図ることができる」など、同社の商品の強みについて説明がありました。

### ● ゲスト企業・機関紹介

#### 「信用保証協会の役割について」

##### 岡山県信用保証協会

岡山県信用保証協会倉敷支所主幹大熊俊之氏から「当協会は、中小企業者の金融円滑化のために設立された公的機関であり、中小企業者が

金融機関から事業資金の融資を受ける際、当協会が確かな保証人として中小企業者の信用力を補完することで、資金調達がスムーズになること。利用できる制度融資の種類は様々あること。ご相談は金融機関融資窓口にて」と分かり易くご説明頂きました。

### ● ORICセミナー

#### 「人を雇うときのルール(その2)」

—法令違反、トラブルにならないための採用、契約就業規則・社会保険手続きなどの留意点について—

今年2月に続いて、(独)雇用能力開発機構岡山センターとの共催により(企)おかやま人事ネット21社会保険労務士中野花都江氏に掲題のテーマで前回未解説の項目を中心にお話頂きました。

I. 会社のルールと労働基準法の関係の中では、①「就業規則」については、労働者を雇う際に必ず書面交付が義務付けられている事項は(ア)始業終業時間、(イ)退職に関する事項、(ウ)賃金の

計算根拠などであり、明記することによりトラブルを未然に防止できる。②「所定労働時間と超過勤務手当」では、時間外・深夜・休日労働については割増賃金支払いの必要がある。③「退職と解雇」については、退職時の注意点(取引先や顧客の名刺・従業員名簿・就業規則の返却など)、退職証明書、解雇する場合は30日前の解雇予告か、30日分の平均賃金(解雇予告手当)の支払いが必要である。などについて詳しくご説明頂きました。  
II. 人材育成(自分と同じ気持ちで働いてもらう)の中では、①評価基準の作成、②継続的な教育訓練などが特に重要であることなど経営者が周知すべき事項を分かりやすく解説頂きました。

## 8 月度ORIC交流会及びセミナー

### ● 入居企業紹介

#### 「小電力供給システム向けパワーコンディショナーの開発」

##### (株)アルティスタ

この8月に入居した(株)アルティスタの企業紹介として、営業担当取締役橋満士郎氏より、同社の概要と、ORICでの活動について、お話頂きました。同社は、これまで、自動車、半導体、通信などの分野で、設計、解析、シミュレーション等の技術を持つ、アウトソーシングの企業として

業績を伸ばしてきました。今後は、自社開発事業として、得意の回路技術を生かした、パワーエレクトロニクスの分野への進出を目指しておりORICで、研究開発をするとのこと。自動車や電力供給分野では、同社が技術やノウハウを持つ高効率インバーターや安定化電源技術が活かせると考えています。

ORICへの入居により、岡山県工業技術センターの機器の有効利用により優れた商品開発が進むことが期待されます。



● **ゲスト企業・機関紹介**  
「岡山県地域密着」求人情報サイト  
『天職どん』のご案内  
ひとだじ(株)

ビジネス・インキュベータ岡山に入居されているひとだじ(株)の代表取締役谷口幸治氏、代表取締役坪井孝之氏が求人情報ポータルサイト「天職DON」の紹介をされました。当サイトの特徴は、①成功報酬型であり求人情報を掲載する費用は無料、②応募効果を上げるためのシステムを組み込んでいる、③採用活動に役立つユーザの

統計分析データを提供する、④100%メール返信の安心フォロー体制、⑤「自分探し・履歴書添削・情報メール配信」機能満載、⑥24時間・365日掲載・訂正可能、⑦同業他社の情報も掲載。などで従来の採用活動の障壁をなくしITを活用して、より効果的な攻めの求人広告が可能です。「求職者と企業との出会いを大切に、一人でも多くの方に天職を見つけて頂くこと、優良な求人情報を提供すること」を目標に今後も成長していきたいと力強く締めくくられました。

● **ORICセミナー**  
「いかに魅せて売るか、販売戦略の中のセールスプロモーション」

今回は、「いかに魅せて売るか、販売戦略の中のセールスプロモーション」というテーマで、(株)大塚デザイン代表取締役の大塚益美氏にお話頂きました。

我々の身の回りには、様々な商品が溢れていて、自社商品を他社商品から差別化することは結構難しい。ところが、商品パッケージや、商品カタログに魅力的なデザインを導入すると、とたんに、高級感など、「魅せたい」雰囲気を漂わせることができるということです。例えば、タオル5本詰めの化粧箱でも、箱の中のタオル全体を紙の帯でくるみ、さらにその帯にひもをかけるだけでも、高級感を演出できます。しかも、安価に。このようにデザインを上手に利用することで、他社と

はひと味違った商品、魅せる商品をアピールできるという趣旨のお話でした。

デザインを有効に使った宣伝戦略をお考えの企業は、プロのデザイナーによる魅せる商品づくりも、考慮する価値があると感じました。



(株)大塚デザインの大塚社長によるセミナー

## H18年度 第2回OIAセミナー

「韓国ベンチャー企業の現状と日本との関わり」  
韓国技術ベンチャー財団

9月5日、当日催された日・韓技術マーケティング支援事業に関する業務協力覚書交換式」の記念講演として、ORIC交流室において韓国技術ベンチャー財団 東京事務所長金顯鍾(キムヒョンジョン)氏により「韓国ベンチャー企業の現状と日本との関わり」について講演が行われました(おかやまインキュベータ協議会主催)。  
①韓国の中小・ベンチャー企業支援事業の現況、②洪陵ベンチャーバレーの支援システム、③韓国技術ベンチャー財団紹介、④日・韓技術マーケティング支援事業などについて約1時間30分に亘り詳しくご説明頂きました。

この中で韓国においては、各省庁により創業保育事業(インキュベーションセンター運営)、

技術取引事業(技術移転事業)など分担して行っており、現在、インキュベータは全国に273箇所、4,300余りの企業が入居している。今回、岡山県との具体的な商談会等の開催を機に、お互いに協力して日・韓両国の中小・ベンチャー企業のマッチングの成果が上がり、双方の産業振興に寄与することを目指して今後も努力していきたいと結ばれました。



## 9 月度ORIC交流会及びセミナー

### ● 入居企業紹介

「ORICに入居後の事業進展について」

(株)ビークル

同社の研究所長獣医師日詰信吾氏からORIC入居時からの事業進展状況についてご説明を頂きました。詳しくは、後記の「入居企業紹介」をご参照願います。

### ● ORICセミナー

「セールスレップの活用について」

メーカーと販売先を結ぶ橋渡し役として、最近注目が集まっている「セールスレップ」について、ご活躍中の河野浩氏、柚木繁氏にお話をいただきました。(関連記事は、最終ページです。)

### ● ゲスト企業・機関紹介

「特許分析システム～迅速・的確な知的財産戦略構築を強力にサポート～」

(株)パティールラボ

今年8月開業の倉敷市「くらしきベンチャーオフィス」入居企業の同社代表取締役三宅雅氏をお招きして、分野別、企業別の特許戦略を分析して参入可能な特許を探り当てる「特許分析システム」を中心にご紹介頂きました。「特許分析システム」の特徴は①従来の特許調査方法(キーワード検索、IPC検索等)では、簡単には見出すことが困難であった競合他社の特定技術分野の

特許出願動向を迅速・的確・効率的にそして、俯瞰的に分かり易く提供するサービスであること。②重複研究投資の排除、より差異化された製品開発、確実な特許権利確保、無用な他社特許侵害等、今後の知材戦略構築が可能ということにあります。各企業の特許戦略のサポートに役立てて競争を勝ち抜いて欲しいとのお話でした。

この他、地域おこしのための「地域活性化ポータルサイト」や「製造物責任管理システム」など、現在、開発中の内容について具体的事例を挙げながらお話頂きました。

## トピックス

### ■ 日・韓技術マーケティング支援事業に関する業務協力覚書交換式

9月5日、(財)岡山県産業振興財団とORICは韓国技術ベンチャー財団と「日・韓技術マーケティング支援事業」の業務協力について覚書を締結しました。岡山県とソウル市及びその近郊の中小・ベンチャー企業同士の技術交流を行うことによりそれぞれの地域の産業振興を目指すため、昨年12月に3者間で結んだ「業務提携に関する基本協定」に基づき実施する技術移転や製品販売などの成果報酬や費用負担について定めたものです。調印式のあと、韓国技術ベンチャー財団の東京事務所長金氏による記念講演会「韓国ベンチャー企業の現状と日本との関わり」をORICにて開催。翌日はコンベックス岡山で開催された「しんきん合同ビジネス交流会」に韓国から10社が参加して活発な商談を行いました。11月14日開催の「ベンチャープラザ岡山2006」にも韓国からの中小企業の派遣が予定されています。



▲ 調印式の様子(左より岡山県産業振興財団 青井賢平 理事長、韓国技術ベンチャー財団 林載成 事務総長、ORIC 松尾彰 センター長)



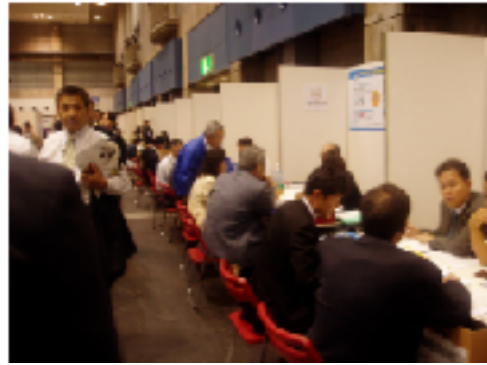
▲ 8月に韓国技術取引所で開催された商談会

## ■ しんきん合同ビジネス交流会

(株)シスコ・コミュニケーションズ、メディアエリアサポート(企)が参加

去る9月6日にコンベックス岡山において、しんきん合同ビジネス交流会が開催されました。今年は2回目ということで、昨年より30社近く多い約370社の参加があり、当ORICの現入居企業からも、(株)シスコ・コミュニケーションズとメディアエリアサポート(企)の2社が参加しました。この催しは、岡山県内全信用金庫の取引先企業を中心に、県外企業や初参加の韓国企業も加わり、各社のビジネスニーズに基づいたマッチングのための交流、商談のイベントです。

効果的な出会いの場の演出のために、事前の要望に沿って、相手を指定した個別商談会と、偶然の出会いを大切に、フリー商談会がセットされており、そこここで名刺交換の姿が見られ、盛んな交流が行われました。



▲ フリー商談会の様子



▲ メディアエリアサポート(企)のブース

## ■ イノベーション・ジャパン2006－大学見本市

インタロボット(株)が参加



9月13日から3日間に亘り東京国際フォーラムで開催された「イノベーション・ジャパン2006－大学見本市」(科学技術振興機構他主催)にORIC入居企業のインタロボット(株)が岡山県立大学発ベンチャーとして参加しました。同社は「人とのつながり・かかわり」をテーマとして開発した以下の新商品・新サービスを発表・展示。1. 対話型マルチメディアタッチパネル端末「インタトークボード」、2. 誰でも簡単に利用できるWEBチャットシステム「インタミーティング」です。詳しくは東京オフィスまで(電話 03-6804-2030)

### イベント案内

あなたの夢はここからスタートする・・・

#### ベンチャープラザ岡山2006開催のご案内

来る、平成18年11月14日コンベックス岡山にて岡山県産業振興財団主催による「ベンチャープラザ岡山2006」が開催されます。本展示会の趣旨は、販路開拓、資金調達、人材確保などのための企業、バイヤーや金融機関とのマッチングの場を提供するものです。新製品や技術、サービスの展示、説明の他、ベンチャー企業経営者による記念講演会、ベンチャー・ビジネスプランコンテストのプラン発表・

審査などが行われます。今回初企画として「ニューマーケット商談会」と銘打ってスーパーやホームセンター等の調達担当者(バイヤー)との個別商談会が開催されマッチング成果が一層期待されています。また、優れた技術や経験を持つOB人材と企業のマッチングも同時に開催されていますので是非お出かけ下さい。

#### ■ 問合わせ先

岡山県産業振興財団 経営支援部  
ベンチャー・経営革新グループ内  
TEL: 086-286-9626  
<http://www.optic.or.jp/vp/>



## 株式会社 ビークル



代表者 代表取締役社長 谷川 敬次郎  
 連絡先 岡山市芳賀 5303 ORIC 305号室  
 TEL/FAX 086-286-8091  
 URL <http://www.beacle.com>  
 E-mail [info@beacle.com](mailto:info@beacle.com)

### ●事業概要

当社は、「バイオナノカプセル」という新しい「積極的」なDDS技術（ドラック・デリバリー・システム：薬物の働きを最大限に発揮できるように必要なときに目的とする部位のみに薬物を運ぶ技術のこと。投与量を少なくし、副作用を軽くすることが期待され、より安全な薬物の使用を可能とする。）を用いて、抗癌剤や遺伝子治療薬をこのバイオナノカプセルに封入することにより特定の臓器だけに集積する次世代の医薬品開発を行っています。ビジネスモデルの柱は二つ、試薬事業と創薬事業です。創薬事業には3つあり、ライセンス、改良型薬剤開発（既存の肝臓疾患治療薬を改良）、革新型薬剤開発（全く新規の薬剤開発）です。

### ●PR・強み

当社の開発しているバイオナノカプセルはB型肝炎ワクチンの抗原を利用した高効率で安全性の高いDDSとして期待を寄せられています。

このシステムの大きなメリットは、薬剤やタンパク質を粒子に封入すれば効果は極めて高いが副作用の強い医薬品を患部へのピンポイント投与が可能となり、効果はそのままで副作用を軽減できることです。当社はこの新世代DDS技術により肝臓がんなど肝臓関連疾患撲滅を目指しています。

### ●これまでの歩み

岡山大、大阪大、神戸大、慶應大の連携による大学発ベンチャー企業として2002年に会社設立。資本金300万円、社員5名からスタート。昨年は「第4回バイオベンチャー大賞 文部科学大臣賞」受賞。現在の資本金は4億2,550万円。これまでに、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、(独)農業・生物系特定産業技術研究機構、今年度は中国経済産業局の中小企業新規事業活動支援補助金の採択を受けて、従業員21名まで増員、研究スピードを一段と加速させています。この他アメリカ海軍とマラリアワクチンの共同研究を実施中です。

### ●今後の予定

平成19年には試薬メーカーを通して試薬販売を、また平成19年度には医薬品として安全性試験などの非臨床試験を実施する予定です。

## 株式会社 アイ・サポート



代表者 代表取締役社長 槇尾 剛  
 連絡先 岡山市芳賀 5303 ORIC 114号室  
 TEL 086-286-9520 FAX 086-286-9521  
 URL <http://www.isupport.co.jp>  
 E-mail [isupport@isupport.co.jp](mailto:isupport@isupport.co.jp)

### ●事業概要

コンピューターシステムを利用した情報ネットワークにより、水と施設の総合管理事業を行っています。

- ・上下水道の維持管理
- ・上下水道の調査、設計、測量、工事管理
- ・コンピューターシステムを利用した情報ネットワークによる情報処理並びに情報提供業務
- ・一般労働者派遣業
- ・上下水道設備、水処理装置の設計～施工
- ・測量業
- ・大気、水質、騒音、土壌の環境測定調査及びコンサルティング

### ●PR・強み

上下水道の施設管理に関するアウトソーシングを受け皿とした受託管理業務を主業務とする会社は県内にはありません。上下水道事業に経



水道GISによる断水検索の画面サンプル

験豊富な技術者を抱えており、業務ノウハウとコンピュータシステムを融合させたGIS利用の施設情報管理システムを独自に開発して参りました。このシステムと監視装置制御システムと連携を図ることにより、遠隔監視、異常時への緊急対応を実現しています。さらに台帳管理システムの導入により、設備の定期点検や修繕業務が効率アップされています。

### ●今後の予定

現在行っているGIS入力管理等の業務は県内だけでなく、平成19年度には県外にも展開していく計画です。また、行政コスト削減の一環として、上下水道施設管理等のコストメリットを出すべく営業活動を行って参ります。

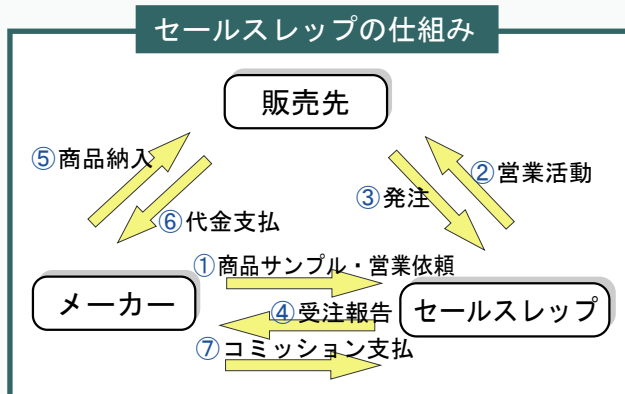
## コンサルタント共同オフィスの開設

10月からORIC216号室に共同コンサルタントオフィスを開設しました。従来から当センターは税理士、弁護士と顧問契約を結び、入居企業が廉価な費用で相談できる制度を設けていました。今回の目的は、税理士など、複数の専門家がORICに拠点を置き活動できるように共同オフィスを設置することで、入居企業が日頃から専門家と容易にコンタクトできる機会を設けること、また、入居する専門家の協力を得て、廉価な費用でアドバイスを受けることのできる環境を更に整備することにあります。今回、専門家は小川大助税理士及びUMC宇高技術コンサルタントが入居いたします。その他の専門家については、従来から契約している弁護士に加えて、弁理士、社労士などの専門家を定期的に招いて相談会を開催することになっています。入居企業の皆さんが、自社の事業運営で積極的に活用し、早期に成長・発展することを期待しております。

## セールスステップについて

ベンチャー企業の多くは、製品ができて、「要員がない、顧客とのパイプがない」などの理由で、販路開拓でご苦労されているのが現状です。そういう商品を持っているメーカーと販売先とを結ぶ橋渡し役としての役割を期待されているのがセールスステップです。セールスステップの仕組みは下図のようになっています。

- 特徴として
- 1) 専門知識を背景にメーカーに代わって顧客に営業・提案を行うことで取引の斡旋仲介を行う。
  - 2) 商談が纏まると契約はメーカーと顧客が直接の取引を行い、報酬はセールスステップに成果報酬(コミッション)と言う形式で支払われる。
  - 3) セールスステップは自らの選択眼で商品の取扱いを選択して、競争をしない複数のメーカーの商材を扱うことができる。



ORICは入居企業や県内中小企業の販路支援の一つとして、(株)ワイブレインと連携して、セールスステップを活用する商談会を来る11月22日に開催いたします。

出展対象は入企業に限定せずオープンになっています。出展希望者や商品の販売を希望される方などご関心のお持ちの方は、ORICのホームページ(<http://www.oric.ne.jp>)で詳細をご覧ください。(10月中旬掲載予定)

## 入居希望者募集中！！

### ■施設使用料

創業5年未満の企業は入居後3年間は1/2に減免する制度があります。

施設区分	面積	部屋数	使用料の月額
研究室 小	約 25㎡	22	45,000円
研究室 大	約 50㎡	30	88,000円
試作開発室	約 100㎡	6	175,000円
プレインキュベーション室	6ブース (5㎡/1ブース)		5,000円

### ■次回募集

原則として3ヶ月毎に入居審査会を開催しています。今回は11月末までに事業計画書を提出された方を対象に、12月中に開催の予定です。

※プレインキュベーション室の募集は随時受け付けています。(大学の関係者に限ります。)

(参考)【入居可能研究室】(2006年10月1日現在)

研究室小 (25㎡)	: 8室
研究室大 (50㎡)	: 7室
試作開発室 (100㎡)	: 1室